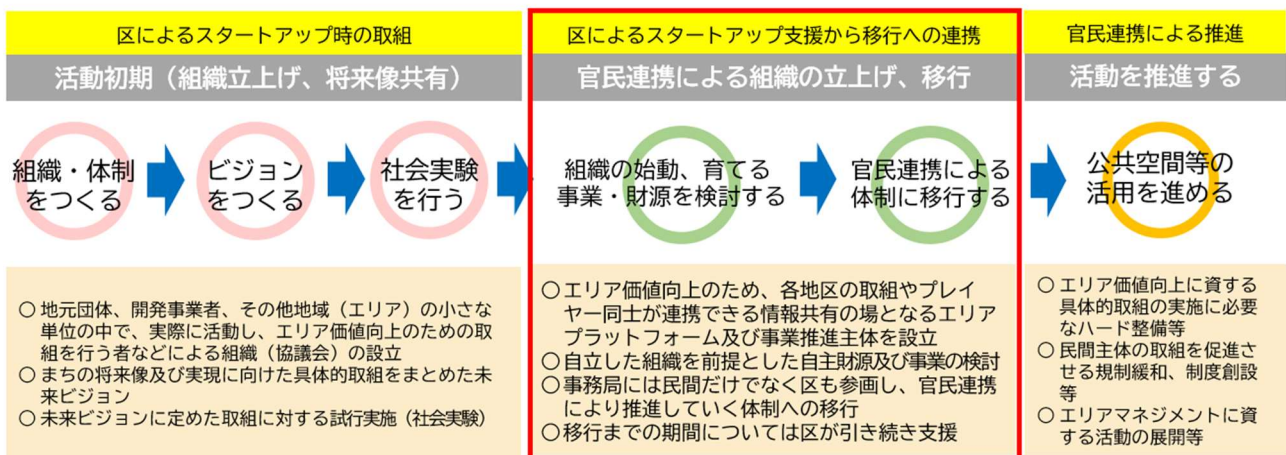


中野駅周辺エリアマネジメントの進捗状況について

中野駅周辺で展開される市街地再開発事業等を契機とした、まちの魅力や価値を維持向上させていくための中野駅周辺エリアマネジメントを推進するにあたり、令和4年4月に「中野駅周辺エリアマネジメント協議会（以下「協議会」という。）」が設立され、区は協議会の事務局運営を支援し、スタートアップ時の牽引役を担ってきたところである。

現在の進捗状況について、以下のとおり報告する。

（参考）これまでの協議会及び区の実施



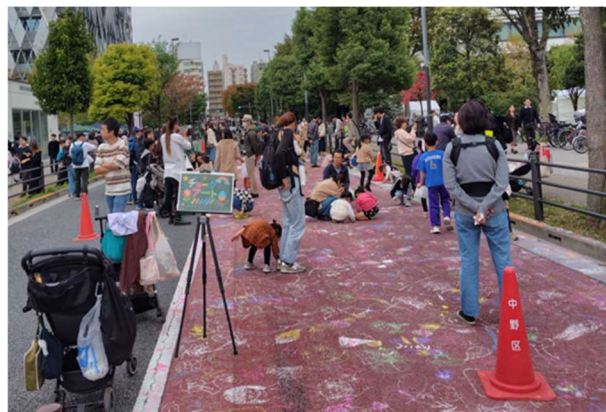
1 現在の取組と新たな推進体制の構築

(1) 現在の取組

区はこれまで、協議会の牽引役として組織づくりや未来ビジョン策定に取り組んできたが、民間主体のエリアマネジメント組織設立後の活動初期段階は、事業収入が見込まれるまでの期間も行政による伴走型の支援が必要である。

令和7年度におけるエリアマネジメント事業の取組の一環として、8月23、24日には中野四季の森公園において中野チルナイトピクニックと連動した「なかのやすみ時間～おそうじヒーロー～」と題し、じゃぶじゃぶ池の時間を延長するとともに、子どもたちと上映作品にあわせた仮装での会場の清掃活動を実施した。

また、11月2日には中野四季の森公園オープンカフェ社会実験（道路活用）を実施した。「道路であそぶ、たべる、やすむ」をテーマに区道22-450号の通行止めを行うとともに、歩行者の滞留空間を確保するために机やベンチなどを設置することにより、道路空間を活用した憩い、にぎわい創出の検証を行った。当日は多くの通行・利用があり、子ども向けのチョークアートスペースの展開などにもぎわいの創出に寄与した。これにより、地域の活性化と空間活用の可能性を確認することができた。



※写真は、11月2日オープンカフェ社会実験（道路活用）の当日の様子

(2) 新たな推進体制の構築

民間主体のエリアマネジメント組織は、エリアマネジメント活動を行う組織づくりを担うエリアプラットフォームと具体的な事業や活動を支える組織の2つの体制による推進が有効である。

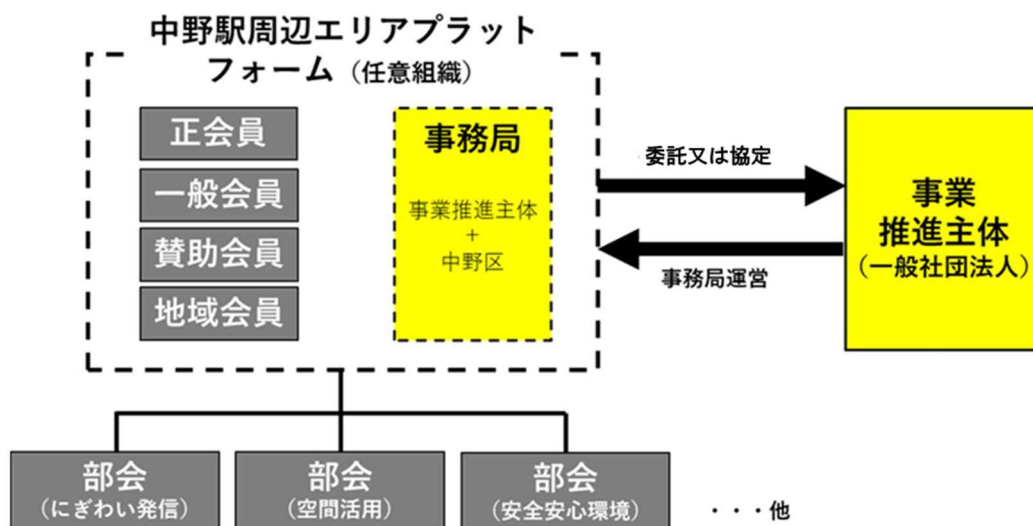
ア エリアプラットフォーム

エリアプラットフォームは、令和7年度中に設立予定である。現存の協議会は、区及び中野駅周辺の各地区を代表した構成員のみで構成された組織である一方、エリアプラットフォームは中野駅周辺エリア全体の情報共有と連携の場として、行政や各開発事業者、地元団体のみならず、商店会や町会、企業、教育機関等、中野駅周辺のまちづくりに関心のある様々なプレイヤーが会員となる。なお、区は、事業推進主体とともにエリアプラットフォームの事務局を担うことにより、エリアマネジメント活動の方向性や公共空間等の活用ルールに係る議論、課題共有等についても関与していく。

イ 事業推進主体（法人）

事業推進主体は、一般社団法人を想定し、エリアプラットフォームからの委託又は協定に基づき事務局を担う一方、中野駅周辺エリア内の各種事業や活動を実行する役割を担うものとする。当該事業推進主体は、民間事業者や地元団体で構成することを想定しており、令和8年度中に設立し、令和9年度から本格稼働を目指す。

（参考）組織体制のイメージ



2 今後の区役割

区は、これまで協議会スタートアップ時の牽引役として組織づくりや未来ビジョン策定に取り組んできたが、民間主体のエリアマネジメント組織の設立後の活動初期段階は、事業収入が見込まれるまでの期間も行政による伴走型の支援が必要であるため、エリアプラットフォーム及び事業推進主体の活動初期の支援を行い、引き続き推進体制に関与していく。

令和8年度は、エリアプラットフォーム会員として参画する一方、事業推進主体と事務局を担い、全体会議や部会活動に、引き続き参加する。

また、区は「歩きたくなるまちづくり」の推進において、エリアマネジメントの視点から、地域の多様な主体が連携・協働しながら公共空間の利活用や地域の魅力向上に取り組む活動を支援する。特に、にぎわいや居心地の良さを生み出すためのソフト施策や情報発信、区民・事業者への啓発など、民間主体の取組を後方から支える役割を担う。こうした取組の一環として、地域の創意工夫を活かした社会実験を今後も継続的に実施し、エリアマネジメントの定着と発展を図っていく。

3 今後の予定

令和8年度 エリアプラットフォーム活動の開始
令和9年度 事業推進主体による事業開始

【今年度の活動及び今後の予定のイメージ図】

